

## 授業概要

教育の歴史についてはさまざまな授業の中で触れられるが、時間の制約などの理由から、知識集約的なものになりがちである。そのような形で教授される歴史とは、さまざまなものを捨象した結果であり、いうなれば「点」である。しかし、実際の歴史は「線」や「面」である。もっと複雑であり、豊かでもある。

「点」にしか見えない歴史を「線」や「面」にするのに必要なのが、史料である。しかし、史料を読み解くには一定のリテラシーが必要で、史料の解説は時間を要するので、通常の授業で十分に触れることは難しい。

そこで、日本の近代以降の教育の歴史と、その過程で等閑に付されがちな幼児教育の歴史について、史料に触れることを通じて講義する。

## 授業計画

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション：授業の方法や進め方         |
| 第 2 回  | 前近代の教育                      |
| 第 3 回  | 近代の教育（1）：明治初年から学制の頒布まで      |
| 第 4 回  | 近代の教育（2）：教育令と諸学校令           |
| 第 5 回  | 近代の教育（3）：教育勅語の渙発と明治後期の教育    |
| 第 6 回  | 近代の教育（4）：大正新教育              |
| 第 7 回  | 近代の教育（5）：昭和初期から戦時下の教育       |
| 第 8 回  | 現代の教育（1）：戦後改革               |
| 第 9 回  | 現代の教育（2）：占領の終了といわゆる「逆コース」   |
| 第 10 回 | 現代の教育（3）：高度経済成長と教育          |
| 第 11 回 | 現代の教育（4）：1970 年代以降の教育       |
| 第 12 回 | 幼児教育の歴史（1）：明治期              |
| 第 13 回 | 幼児教育の歴史（2）：大正期・昭和戦前期        |
| 第 14 回 | 幼児教育の歴史（3）：戦後（1）（1960 年代まで） |
| 第 15 回 | 幼児教育の歴史（4）：戦後（2）（1970 年代以降） |
| 第 16 回 | 定期試験                        |

## 到達目標

- さまざまな史実について、史料に基づいて説明することができる。
- さまざまな史実について、前後の経緯を含めた流れの中で説明することができる。

## 履修上の注意

歴史に関する断片的な知識は、これまでの授業である程度は聞いてきているはずである。それを踏まえて、資料を通じてその断片をつないでいく。毎回史料を読むことになるので、それを十分に承知した上で履修されたい。

## 予習・復習

予習：シラバスに掲げる項目（詳細なものを初回授業時に示す）について、参考文献やインターネットなどで確認しておく。

復習：講義内容を定着させるとともに、各授業時に示す参考文献にもあたってほしい。

## 評価方法

定期試験（100%・持ち込み可の論述試験を実施する）

## テキスト

テキストは指定しない。  
毎回資料を配布する。